

第2章 北海道の「めざす姿」

1 北海道の将来展望

(1) 北海道を取り巻く状況

本道の将来を展望するに当たり、まずその基底となる状況として「人口減少・少子高齢化の動向」や「経済・産業の動向」、さらに想定される影響として「気候変動など直面する課題」、様々な課題解決に向けた「新たな技術の活用」について、現況確認とそれらを踏まえた展望を行い、これらの4つの観点から、本道を取り巻く社会経済情勢について、概ね10年後の2030年代半ばを見据え、総合的に将来を展望します。

人口減少・少子高齢化の動向

〔現況〕

我が国の人口は、戦後のベビーブームなどにより増加してきましたが、2008年をピークに減少局面となっており、65歳以上人口が、総人口に占める割合（高齢化率）は2020年現在で28.7%と年々上昇しています。

本道においても、全国より約10年早く、1997年をピークに人口減少に転じて以降、全国を上回るスピードで人口減少と高齢化が進行し、高齢化率は2020年現在で32.2%と全国と同様に年々上昇しています。人口は2022年現在（令和4年10月1日現在）で約514万人となっています。

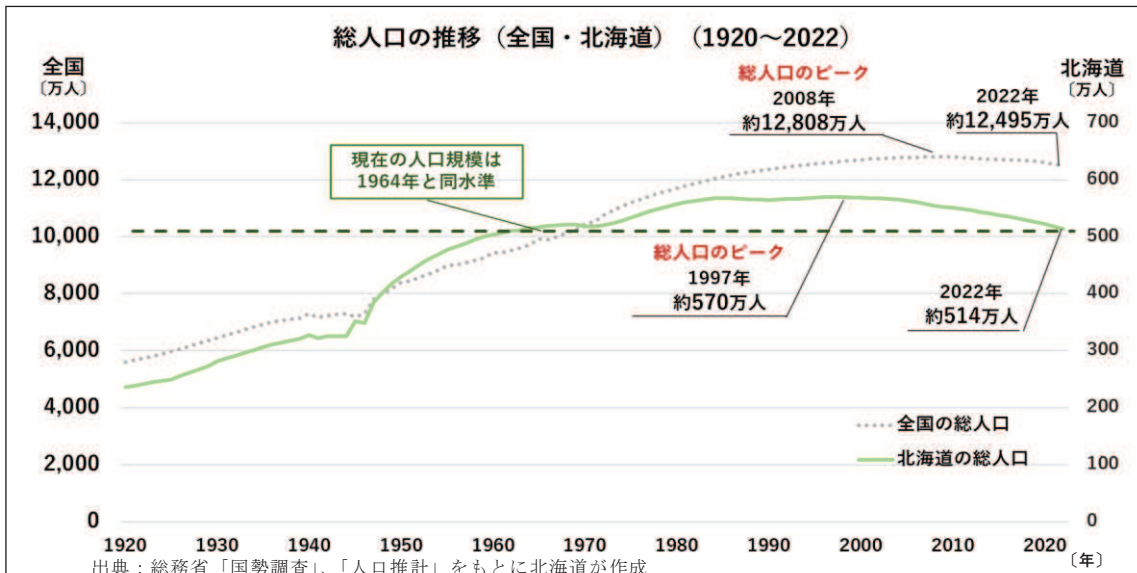
また、2020年現在で人口の45.9%が札幌市を含む石狩振興局管内に集中しており、他の地域においては、人口減少と高齢化が顕著で各地域の中核都市でも、若年層の転出などによる人口減少が進んでいます。

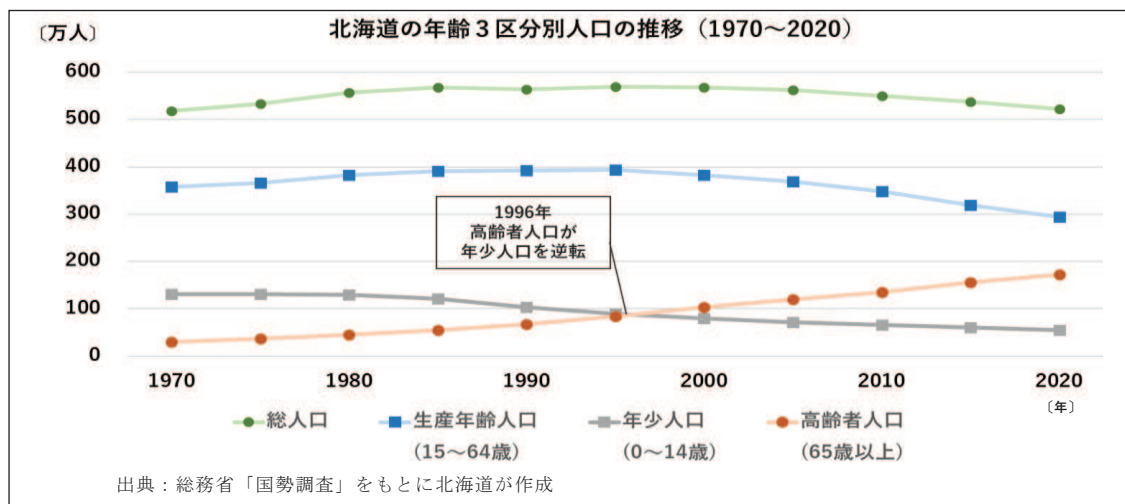
全国・北海道の年齢3区分別人口の推移

	区 分	1970年	2000年	2010年	2020年
年少人口 (%) (0～14歳)	全 国	24.0	14.6	13.2	12.1
	北海道	25.3	14.0	12.0	10.8
生産年齢人口 (%) (15～64歳)	全 国	68.9	68.1	63.8	59.2
	北海道	69.0	67.8	63.3	57.0
高齢者人口 (%) (65歳以上)	全 国	7.1	17.4	23.0	28.7
	北海道	5.8(-1.3)	18.2(0.8)	24.7(1.7)	32.2(3.5)

出典：総務省「国勢調査」をもとに北海道が作成
北海道総合政策部「国勢調査結果」

※括弧内は全国との差





振興局別の人口推移

(人)

	2010年	2020年	構成比			増減数	増減率	
			0~14歳	15~64歳	65歳以上			
空知	336,254	281,964	8.9%	50.7%	40.4%	5.4%	-54,290	-16.1%
石狩	2,342,338	2,396,732	11.2%	60.6%	28.2%	45.9%	54,394	2.3%
後志	232,940	198,888	9.3%	51.9%	38.8%	3.8%	-34,052	-14.6%
胆振	416,289	382,354	10.8%	54.4%	34.8%	7.3%	-33,935	-8.2%
日高	75,321	63,372	11.0%	53.6%	35.3%	1.2%	-11,949	-15.9%
渡島	427,807	380,158	9.9%	54.1%	36.0%	7.3%	-47,649	-11.1%
檜山	42,058	33,609	8.4%	48.8%	42.8%	0.6%	-8,449	-20.1%
上川	520,365	481,953	10.7%	54.2%	35.1%	9.2%	-38,412	-7.4%
留萌	53,105	43,050	9.1%	50.6%	40.3%	0.8%	-10,055	-18.9%
宗谷	73,447	62,140	10.5%	55.6%	33.9%	1.2%	-11,307	-15.4%
林-ツ	310,009	273,362	10.5%	54.2%	35.3%	5.2%	-36,647	-11.8%
十勝	348,597	332,648	11.7%	56.3%	32.0%	6.4%	-15,949	-4.6%
釧路	247,320	222,613	10.3%	55.2%	34.5%	4.3%	-24,707	-10.0%
根室	80,569	71,771	11.9%	57.3%	30.8%	1.4%	-8,798	-10.9%
全道	5,506,419	5,224,614	10.8%	57.0%	32.2%	100.0%	-281,805	-5.1%
全国	128,057,352	126,146,099	12.1%	59.2%	28.7%	-	-1,911,253	-1.5%

出典：総務省「国勢調査」

振興局別の若年層人口推移

(15~24歳)

(人)

	2010年	2020年	増減数	増減率
石狩	257,428	226,783	-30,645	-11.9%
後志	18,477	14,197	-4,280	-23.2%
胆振	37,534	31,459	-6,075	-16.2%
日高	5,872	4,150	-1,722	-29.3%
渡島	36,898	28,431	-8,467	-22.9%
檜山	2,516	2,072	-444	-17.6%
上川	42,630	37,164	-5,466	-12.8%
留萌	3,579	2,717	-862	-24.1%
宗谷	5,546	4,295	-1,251	-22.6%
林-ツ	26,376	20,678	-5,698	-21.6%
十勝	29,608	26,362	-3,246	-11.0%
釧路	22,030	17,915	-4,115	-18.7%
根室	6,900	5,354	-1,546	-22.4%
全道	522,715	441,638	-81,077	-15.5%
全国	12,489,790	11,548,746	-941,044	-7.5%

出典：総務省「国勢調査」

中核都市の人口推移

(人)

	2010年	2020年	構成比			増減数	増減率
			0~14歳	15~64歳	65歳以上		
札幌市	1,913,545	1,973,395	11.1%	61.0%	27.9%	59,850	3.1%
函館市	279,127	251,084	9.5%	54.5%	36.0%	-28,043	-10.0%
旭川市	347,095	329,306	10.7%	54.8%	34.6%	-17,789	-5.1%
北見市	125,689	115,480	10.5%	55.4%	34.0%	-10,209	-8.1%
帯広市	168,057	166,536	11.6%	58.7%	29.7%	-1,521	-0.9%
釧路市	181,169	165,077	10.2%	55.4%	34.5%	-16,092	-8.9%

出典：総務省「国勢調査」

中核都市の若年層人口推移

(15~24歳)

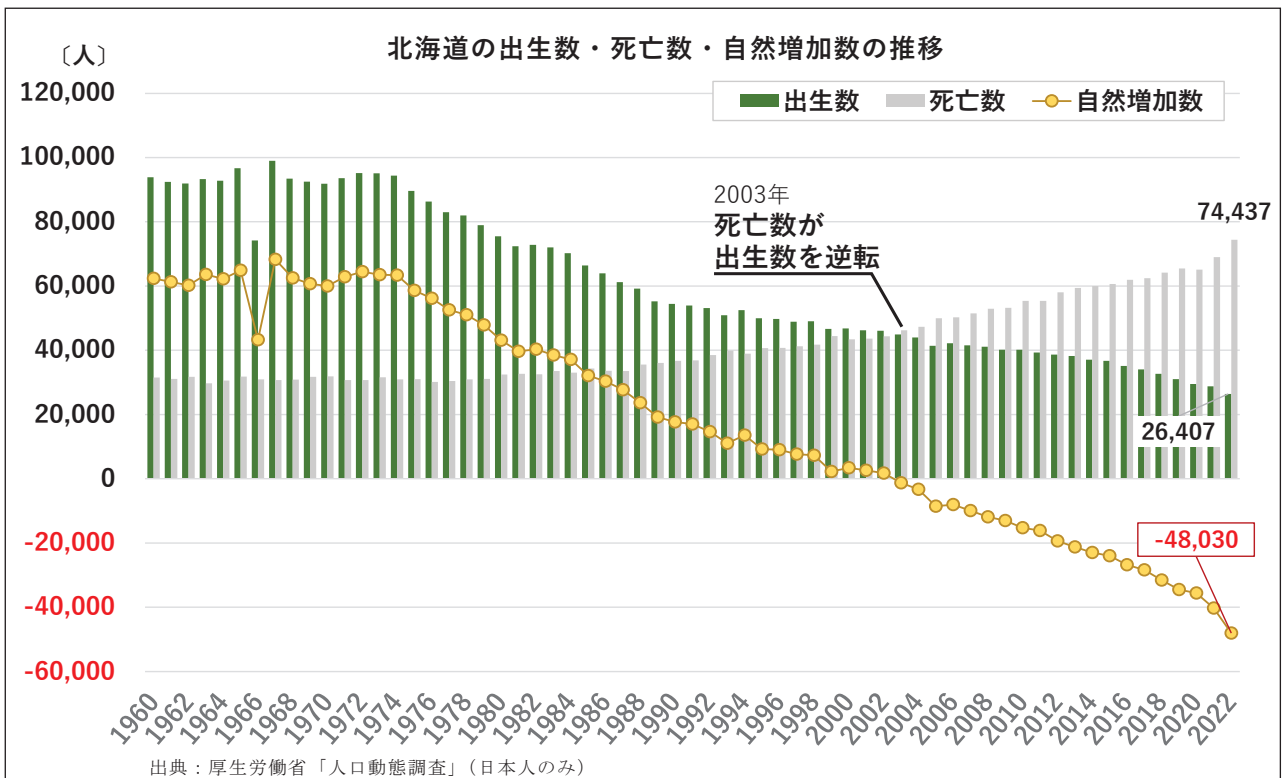
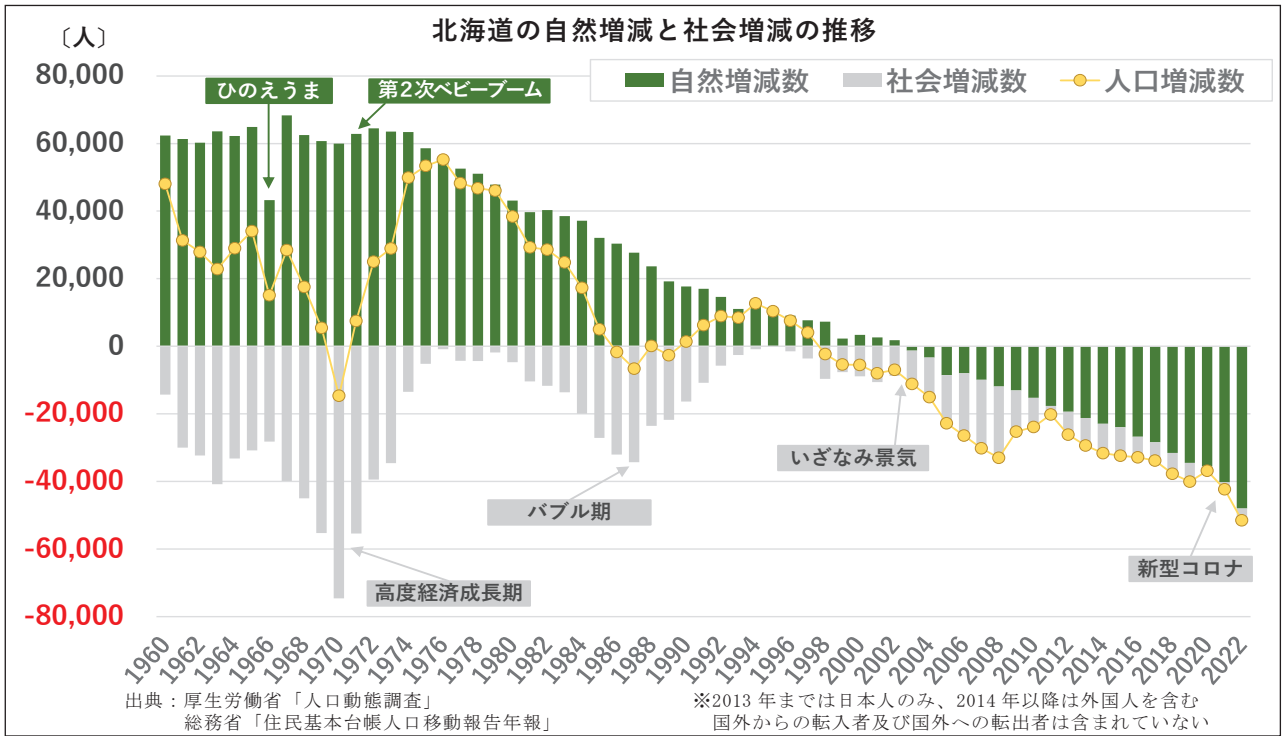
(人)

	2010年	2020年	増減数	増減率
函館市	25,000	19,292	-5,708	-22.8%
旭川市	29,147	25,349	-3,798	-13.0%
北見市	11,465	9,254	-2,211	-19.3%
帯広市	16,351	14,221	-2,130	-13.0%
釧路市	16,445	13,809	-2,636	-16.0%

出典：総務省「国勢調査」

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない場合があります。

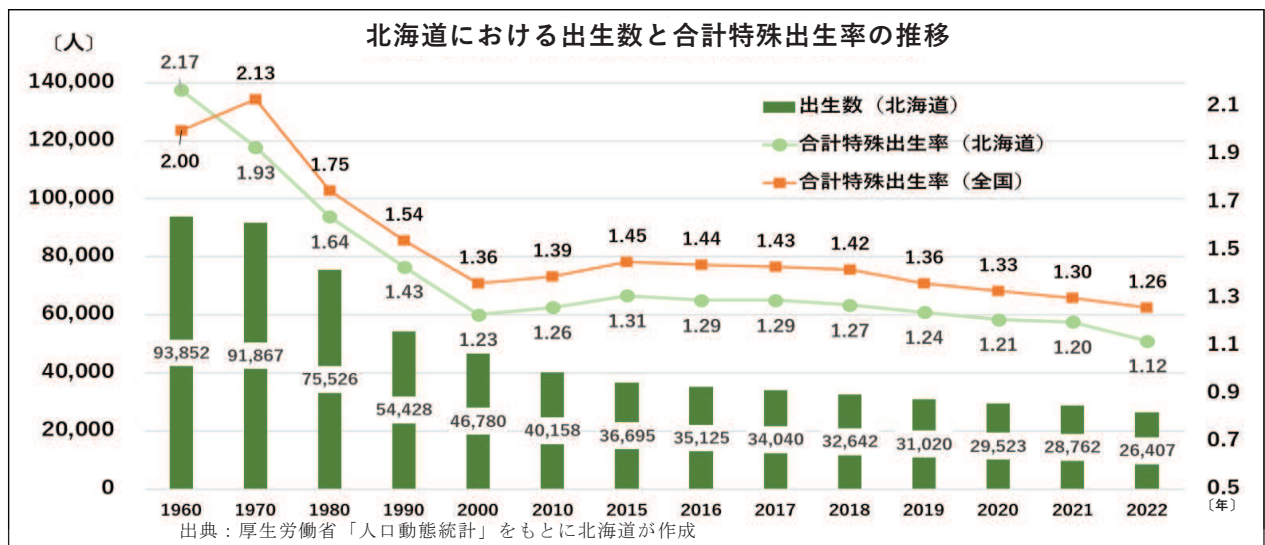
1 本道の人口は、高度経済成長期の1970年や1980年代後半のバブル期といった好景気の時期
 2 における一時的な社会減の拡大を除くと、1960年から1990年代後半までは自然増が社会減を
 3 上回り、人口増が続いていましたが、1998年以降は、人口減少局面に移行し、2003年に死亡数
 4 が出生数を上回って自然減となって以降は、自然減と社会減が相まって人口減少が加速化して
 5 います。



1 全国の合計特殊出生率は、2022年には1.26まで低下するなど、人口規模が長期で維持さ
 2 れる水準（人口置換水準）2.07を下回る状態が約40年間続いており、さらに、未婚率と平
 3 均初婚年齢も男女ともに全国的に上昇傾向にあります。

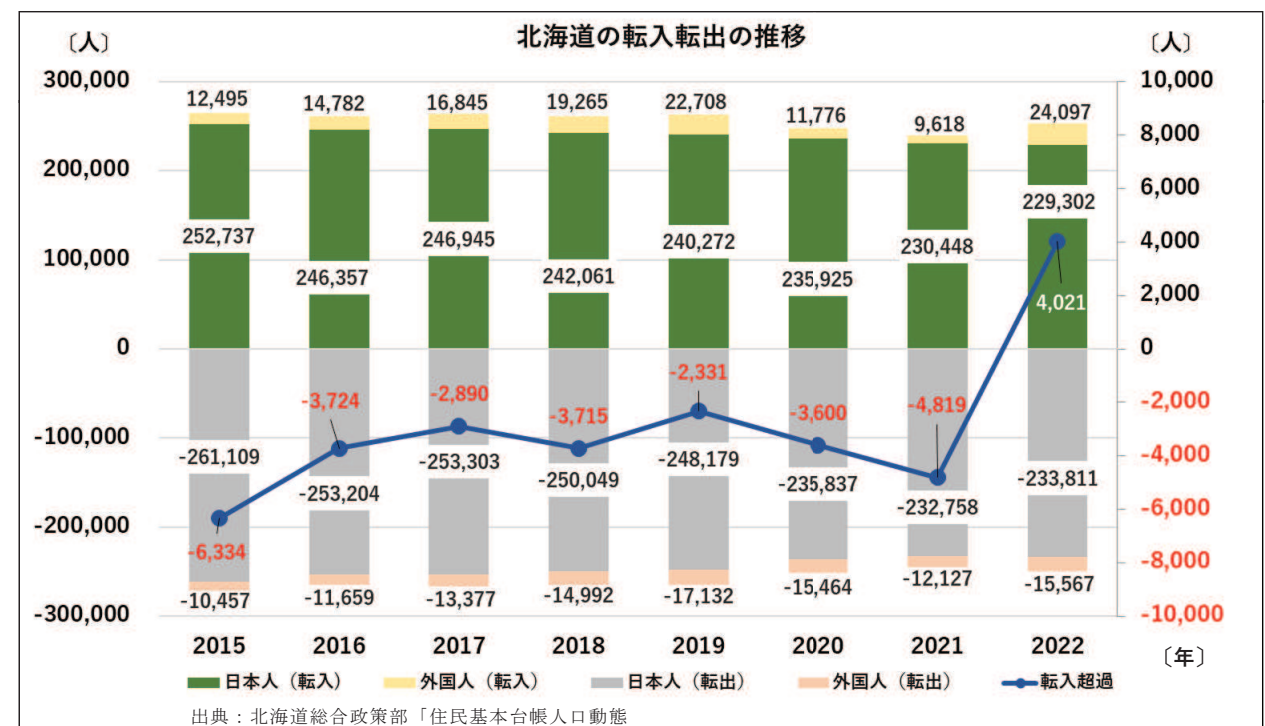
4 本道の合計特殊出生率は、1960年頃から低下傾向が続き、一時回復の兆しが見えたものの、
 5 2015年の1.31を境に再び低下傾向となり、2022年には全国平均を下回る1.12と、都道府
 6 県別で見ると全国で3番目に低い状況にあります。本道の人口の4割を占める札幌市では、
 7 2000年頃から低水準で推移し、2021年には全国平均を大きく下回る1.08となり、全国の政
 8 令市で最も低い状況にあります。

9 未婚率と平均初婚年齢は、北海道も全国と同様に上昇傾向となっています。

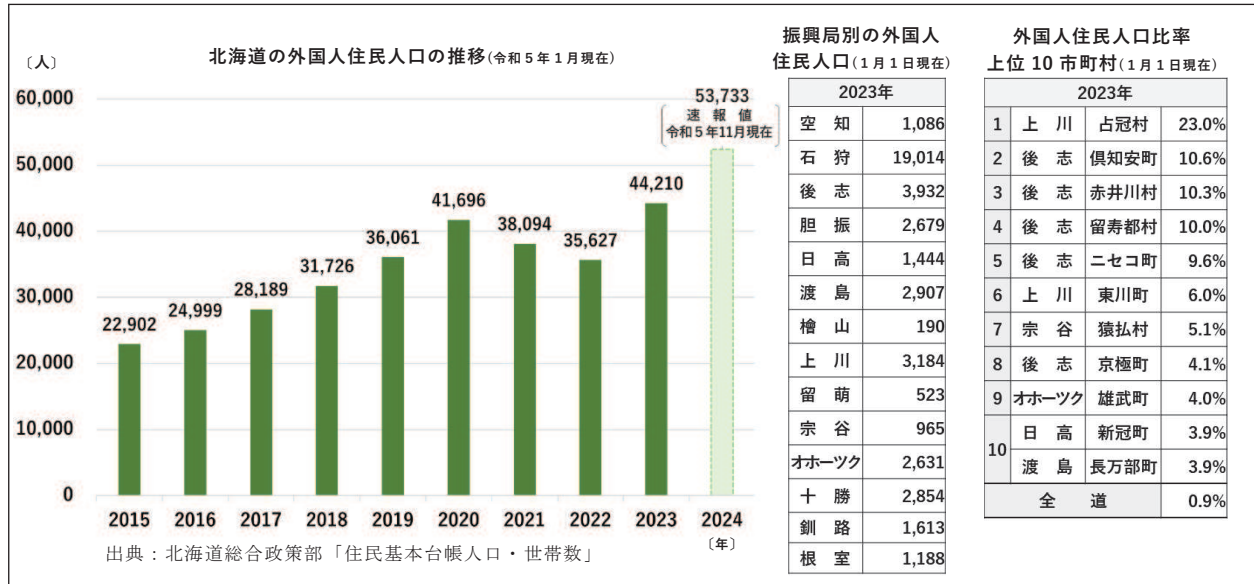


22 2022年における本道の人口動態は、対前年比で日本人の減少数は52,357人と全国で最も
 23 大きくなっていますが、外国人を含めた社会増減数では、外国人の増加が日本人の減少を大
 24 大きく上回り4,021人の転入超過となっています。

25 また、外国人住民人口は年々上昇傾向であり、2023年には過去最高の44,210人に達し、
 26 一部市町村においては、外国人住民人口比率が10%を超える状況となっています。



2022年の振興局別の社会増減の状況としては、石狩振興局と後志振興局が社会増となっており、石狩振興局では、社会増全体の大部分を占める札幌市のほか、その周辺の市においても社会増となっています。後志振興局では、国際的なリゾート地を抱える倶知安町とニセコ町が、外国人の増加により社会増となっています。



〔展望〕

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口(2020年国勢調査基準)では、北海道は、2035年は456万人(65歳以上人口37.0%)、さらに2050年は382万人(65歳以上人口42.6%)になると見込まれています。振興局によっては、2035年の人口が、2020年と比べ3割以上減少するほか、半数以上の振興局で高齢化率が40%を超えるなど、各地域で人口減少と高齢化が一層進行すると見込まれます。

人口規模の小さい市町村ほど更に人口減少が進行する傾向となり、2035年には、人口3,000人未満の市町村の大幅な増加が見込まれることから、人口の偏在や市町村間の格差の拡大、経済規模の縮小や地域活力の低下とともに、石狩振興局管内の人口割合が全道の50%を超えることが見込まれ、更なる人口集中が懸念されており、過度な人口集中を緩和し、地域からの人口流出を抑制していくことが必要となります。

このため、人口減少に適応しながら、地域の暮らしを支える医療・福祉・教育・商業・交通などの都市機能や生活必需サービスを持続させていくとともに、地域特性を活かした産業振興・雇用創出や移住・定住の促進、関係人口・交流人口の拡大など地域の活力向上に向けた取組が必要となります。

また、ライフステージに沿った切れ目ない支援の強化や、働き方など社会全体の構造や意識を変えるとといった少子化対策の加速、さらに、今後増加が見込まれ、地域の暮らしや産業の担い手としての役割が増していく外国人と地域住民とのより一層の相互理解の促進や、外国人にも暮らしやすい地域づくりなど多文化共生社会の形成に向けた取組を進めていくことが必要となります。

振興局別の将来推計人口

(単位:人)

	2020年	2035年	2020年→2035年						2050年	2020年→2050年					
			0~14歳	15~64歳	65歳以上	増減数	増減率	0~14歳		15~64歳	65歳以上	増減数	増減率		
空知	281,964	208,290	6.9%	47.8%	45.3%	-73,674	-26.1%	147,309	6.8%	42.2%	51.0%	-134,655	-47.8%		
石狩	2,396,732	2,304,753	9.2%	57.1%	33.7%	-91,979	-3.8%	2,083,725	9.0%	51.4%	39.6%	-313,007	-13.1%		
後志	198,888	149,947	7.3%	49.9%	42.8%	-48,941	-24.6%	108,363	7.2%	44.5%	48.3%	-90,525	-45.5%		
胆振	382,354	314,865	8.2%	53.2%	38.6%	-67,489	-17.7%	250,821	8.3%	47.6%	44.1%	-131,533	-34.4%		
日高	63,372	47,851	8.0%	51.6%	40.3%	-15,521	-24.5%	34,428	7.7%	44.9%	47.4%	-28,944	-45.7%		
渡島	380,158	299,229	7.3%	51.0%	41.7%	-80,929	-21.3%	224,076	7.1%	44.2%	48.7%	-156,082	-41.1%		
檜山	33,609	22,866	5.6%	46.3%	48.1%	-10,743	-32.0%	14,562	5.1%	39.4%	55.5%	-19,047	-56.7%		
上川	481,953	401,601	8.5%	52.4%	39.2%	-80,352	-16.7%	325,275	8.5%	46.3%	45.2%	-156,678	-32.5%		
留萌	43,050	29,856	6.7%	48.2%	45.1%	-13,194	-30.6%	19,753	6.5%	43.1%	50.4%	-23,297	-54.1%		
宗谷	62,140	46,788	7.8%	53.3%	38.9%	-15,352	-24.7%	33,718	7.6%	47.8%	44.6%	-28,422	-45.7%		
十勝	332,648	289,113	9.2%	53.8%	37.0%	-43,535	-13.1%	242,978	9.0%	48.4%	42.6%	-89,670	-27.0%		
釧路	222,613	174,115	7.3%	52.0%	40.7%	-48,498	-21.8%	128,779	7.0%	45.7%	47.3%	-93,834	-42.2%		
根室	71,771	57,217	8.5%	54.2%	37.4%	-14,554	-20.3%	43,401	8.0%	47.9%	44.1%	-28,370	-39.5%		
全道	5,224,614	4,562,362	8.6%	54.4%	37.0%	-662,252	-12.7%	3,820,016	8.5%	48.9%	42.6%	-1,404,598	-26.9%		
全国	126,146,099	116,638,900	10.0%	57.6%	32.3%	-9,507,199	-7.5%	104,686,386	9.9%	52.9%	37.1%	-21,459,713	-17.0%		

出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」をもとに北海道が作成

